

(特非) たてやま・海辺の鑑定団

南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動

活動地域  千葉県館山市

ひろげる助成

3年目

実践

移植したアマモの株数 **1,020株**

配布した普及啓発用ガイドブックの数 **12,000冊**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **70%**



地域の方たちとのアマモの移植会

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- ごみ軽減策として行政へ提案を行ったが、有効な方策の実行には至らなかった
- 海藻類が全般的になくなってしまいう「磯焼け」が進み移植したアマモが消失してしまった

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍で、沖ノ島が閉鎖となり、普及啓発やイベント開催ができない状況であったが、オンラインでの実施や映像コンテンツの作成に切り替え着手することができた。

課題

環境保全等に有効な規則が存在しないため、一部のマナーが悪い人たちによるごみ問題、自然環境や海洋生物へのインパクトなど、周辺環境悪化が地域の課題となっている。

目標

沖ノ島の保全・再生と活用を両立する。「普及啓発活動」により「大切さ」を共有し、持続可能な「仕組み」、常に管理ができる体制を構築し、自然環境を次世代に継承する。

活動内容と成果

- 10月に環境保全協力を活用した森の再生活動やアマモ場再生活動について、行政との意見交換を行い、環境保全協力金による仕組み強化につながった
- 6月に市内小中学校を通じて「沖ノ島を遊びつくすガイドブック」を約2,000部配布し、普及啓発を行った。夏季のパークレンジャーでは、約10,000部活用した
- 5月30日に、24人で移植会を行った。1,020株を100m²に移植した
- 森の再生活動を計10回実施した。沖ノ島の自生種タブノキの実生苗約50株を移植し、約30株程度残存成長している



自生種の種を拾い集めて移植用の苗を育成

全助成期間の活動を振り返って

台風被災や感染症拡大により大幅な計画変更が必要だったが、環境保全再生に取り組み始めたことで、新しい分野に挑戦することができた。環境保全活動を通して地域の小学校、高校との連携、活動の賛同者・協力者を得ることができた。引き続きシンボルマークやガイドブック等のツールをいかし、常駐のビジターセンターの開設を視野に入れ、地域の若者の活躍の場を目指し、地域の自然環境を未来に繋げるための仕組みとしたい。



森の再生活動

〒294-0034
千葉県館山市沼979番地
電話：0470-24-7088
E-mail：info@umikan.jp
HP：http://umikan.jp/



今後の展望

今後は、全国アマモサミットをきっかけとした新しい連携を模索し、地域の若者や子どもたちに対して「学びの場・活躍の場・発言の機会」の提供しながら、「ローカル環境ビジネスの育成」を実践し、沖ノ島のノウハウをいかにしながら、活動の幅を少しずつ広げ、その担い手となりながら認定NPO化を目指し、そのチャンスをいかに自立につなげたい。